

2. 今回の変更について

このフランス落としは、主要な構造材の仕様表の中の「」に記載されている。
この角棒はφ13の丸鋼から先端を削り出して角棒に加工することが設工認の記載からは読み取れない。今回、以下のとおり記載を明確にすることとした。

なお、主要な構造材の仕様表に記載することで、加工の状況は読み取れることから、他の部分（p 626 図イ建-13ほか添付説明書などの記載）については従来通り角棒の記載とする（新旧比較を資料5-添付1に示す。**変更は4次、6次、7次申請が対象**）。

表1 鉄扉補強材の『主要な構造材の仕様表』の記載

（4次申請：p79 表イ建-2 工場棟転換工場 主要な構造材仕様表（7/7）より抜粋）

（変更前）

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
1-j.鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/>	<input type="text"/>



（変更後）

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
1-j.鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/> <input type="text"/> (φ13丸鋼から先端を角棒に加工。角棒の寸法許容差はJIS-G-3191を準用)	<input type="text"/>

3. 今回の変更の影響

表2に示す通り、今回の変更は記載の明確化であり、設計自体の変更はなく、適合性への影響はない。

表 2 (1/3) フランス落としての記載明確化の適合性評価に対する影響評価

技術基準	設計番号 (表イ建-1 工場棟転換工場仕様表より抜粋)	評価
核燃料物質の臨界防止	－ (該当なし)	－ (核燃料を保持しておらず、臨界防止にも用いられていないことから影響ない)
安全機能を有する施設の地盤	[5.1-建 1] 安全機能を有する施設を設置する建物・構築物は、自重及び通常時の荷重等に加え、耐震重要度分類の各分類に応じて算定する地震力が作用した場合においても、十分な支持性能を有する地盤に設置する。	フランス落としての角棒部分が鉄扉の開閉を拘束する機能を果たす。ただし、今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
地震による損傷の防止	[5.2.1-建 5] ・一次設計 ・建築基準法施行令第八十八条に規定される係数と耐震重要度分類第 1 類の割増し係数(1.5)を乗じて算出した地震力 (0.3G) を与えた場合の構造体を構成する各部の応力が基準等に定められた許容応力以下となる構造とする。 ・二次設計 ・建築基準法施行令第八十二条の三に規定される係数と耐震重要度分類第 1 類の割増し係数(1.5)を乗じて算出した地震力 (1.5G) から求められる必要保有水平耐力を、建物全体の保有水平耐力が上回る構造とする。	フランス落としての角棒部分が鉄扉の開閉を拘束する機能を果たす。ただし、今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
津波による損傷の防止	[5.3-建 1] 事業許可に記載のとおり、基準津波の最大遡上高さ 12.3m と比べて十分高い海拔約 30m～32m の高台に立地している。	－ (立地上問題ない)
外部からの衝撃による損傷の防止 (竜巻) (F1 竜巻)	[5.4.1-建 1](竜巻) ・ F1 竜巻(最大風速 49m/s)の風圧力及び気圧差により建物に作用する水平方向の竜巻荷重に対し、工場棟転換工場本体及び前室の保有水平耐力が上回る構造とする。 ・ 工場棟転換工場本体及び前室の各部に対して、短期許容荷重が、上記 F1 竜巻の風圧力及び気圧差により作用する竜巻荷重を上回る構造とする。	フランス落としての角棒部分が鉄扉の開閉を拘束する機能を果たす。ただし、今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
(洪水)	[5.4.1-建 2](洪水) 事業許可に記載のとおり、北方約 2.5km 離れた低地を流れる久慈川の氾濫の影響のおそれのない海拔約 30m～32m の高台に立地している	－ (立地上問題ない)
(凍結)	－ (該当なし)	－ (鉄扉に対する凍結による影響はない)
(降水)	[5.4.1-建 4](降水) 降水時に建物内への雨水の流入を防止する。 ・ 鉄扉及びシャッタの外側に勾配を設け雨水の流入を防止	－ (鉄扉に対する降水による直接の影響はない)
(積雪)	[5.4.1-建 5](積雪) 茨城県建築基準法等施行細則第 16 条の 4 に基づき、建物全体が積雪 30cm の短期荷重に対し屋根の耐荷重が上回ること、また、屋根は約 60cm 相当の積雪に耐える実力を有することを確認した。	－ (鉄扉に対する積雪による影響はない)
(落雷)	－ (該当なし)	－ (鉄扉に対する落雷の影響はない)
(地滑り)	[5.4.1-建 6](地滑り) 事業許可に記載のとおり、東海村洪水・土砂災害ハザードマップに基づく土砂災害の発生のない場所に立地している。	－ (立地上問題ない)

表 2 (2/3) フランス落としての記載明確化の適合性評価に対する影響評価

技術基準	設計番号 (表イ建-1 工場棟転換工場仕様表より抜粋)	評価
外部からの衝撃による損傷の防止 (火山の影響)	[5.4.1-建 7](火山の影響) 表イ建-2 に示す工場棟転換工場の折板屋根は、降下火砕物(湿潤密度 1.2g/cm ³)で約 10cm(約 60cm)の積雪に相当)の短期荷重に対し屋根の耐荷重が上回る構造としている。	－ (鉄扉に対する降下火砕物による影響はない)
(生物学的事象)	－ (該当なし)	－ (鉄扉に対する生物学的事象による影響はない)
(森林火災)	[5.4.1-建 9](森林火災) 事業許可に記載のとおり、加工施設から最も近い雑木林まで約 400m 以上の離隔距離があり森林火災の影響のおそれのない場所に立地している。	－ (立地上問題ない)
(航空機落下に伴う火災)	[5.4.2-建 1](航空機落下に伴う火災) また、航空機落下に伴う火災が発生したとしても、建物内部の設備に影響しないように外壁の損傷を防止する	フランス落としては鉄扉の耐火性には影響しない。今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
(外部火災・爆発、有毒ガス)	[5.4.2-建 2](外部火災・爆発、有毒ガス) 原子力発電所の外部火災影響評価ガイドに基づいて、敷地内外の火災・爆発に対し、建物外壁から火災・爆発源までの離隔距離を危険距離及び危険限界距離を上回るようにするか、火災・爆発源と外壁の間に影響を遮る障壁を置くようにする。	フランス落としては鉄扉の耐火性には影響しない。今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
(ダムの崩壊)	[5.4.2-建 3](ダムの崩壊) 事業許可に記載のとおり、加工施設の北方約 2.5km 離れた低地を流れる久慈川上流の竜神ダムの崩壊による浸水のおそれのない海拔約 30m～32m の高台に立地している。	－ (立地上問題ない)
(船舶の衝突)	[5.4.2-建 4](船舶の衝突) 事業許可に記載のとおり、船舶衝突のおそれのない海岸から約 6km 離れた場所に立地している。	－ (立地上問題ない)
人の不法な侵入等の防止	[5.5.1-建 1] 以下の方策により、人の不法な侵入を防止する。 ・立入制限区域を設け、所定の出入口以外からの人の立ち入りを禁止する。 ・加工施設の建物は、表イ建-2 に示す主要な構造材、鉄扉(図イ建-9～12、14～17 参照)等の堅牢な障壁を有する。	フランス落としては鉄扉の開閉を拘束するものであり、人の不法な侵入の防止に寄与する。ただし、今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
閉じ込めの機能	[7.1-建 1] 汚染の発生するおそれのない区域(第 2 種管理区域)と汚染の発生するおそれのある区域(第 1 種管理区域)を設定する。なお、工場棟転換工場本体の一部は第 1 種管理区域に設定、第 1 種管理区域と屋外との境界にあたる工場棟転換工場の前室は、非管理区域から第 2 種管理区域に変更する。(図イ建-2～4 参照)	フランス落としては鉄扉の開閉を拘束するものであり、管理区域境界をなす役割をはたす。ただし、今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。

表 2 (3/3) フランス落としの記載明確化の適合性評価に対する影響評価

技術基準	設計番号 (表イ建-1 工場棟転換工場仕様表より抜粋)	評価
火災等による損傷の防止	[4.3-建 1] 建築基準法第二条第九号の三で定める準耐火建築物の工場棟転換工場は、耐火構造又は不燃性材料を使用する。 [4.3-建 4] 工場棟転換工場各部は、原子力発電所の内部火災影響評価ガイドに基づいて、等価時間より長い耐火時間を確保する [4.3-建 5] 火災区域外への延焼防止のため、原子力発電所の内部火災影響評価ガイドを参考に防火壁、防火扉、防火シャッタを設置する。	フランス落としは鉄扉の耐火性には影響しない。今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
溢水による損傷の防止	[5.6.1-建 4] 工場棟転換工場内の部屋に設置する扉は、扉を介して溢水経路を形成できるように、水密性を有さず、かつノンエアタイト仕様とする。	フランス落としは鉄扉の開閉を拘束するものであるが、水密性を持つものではない。今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。
安全避難通路等	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
安全機能を有する施設	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
材料及び構造	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
搬送設備	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
核燃料物質の貯蔵施設	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
警報設備等	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
放射線管理施設	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
廃棄施設	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
核燃料物質等による汚染の防止	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
遮蔽	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
換気	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
非常用電源設備	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
通信連絡設備	－ (該当なし)	－ (評価対象ではない)
その他事業許可で求める仕様	[99-建 1] 更なる安全裕度の向上策として、耐震重要度分類第 1 類の工場棟転換工場は、静的地震力 3Ci に対して概ね弾性範囲とする。 [99-建 3] 更なる安全裕度の向上策として、F3 竜巻(最大風速 92m/s)に対し、工場棟転換工場本体に竜巻防護ラインを設定する。	フランス落としの角棒部分が鉄扉の開閉を拘束する機能を果たす。ただし、今回の変更は角棒部分の設計を変更するものではなく、記載の明確化であり、適合性への影響はない。

変更前(令和2年3月27日付原規規発第2003279号にて認可)

表イ建-2 工場棟転換工場 主要な構造材の仕様表(7/7)

主要な部材寸法及び材質(2/2)

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
1-e. 柱梁仕口部補強	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm スタッドボルト:径 <input type="text"/> mm (JIS B1198) あと施工アンカー: D13	
	既設	鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨:	
1-f. 柱脚部溶接補強	新設	—	—
1-g. 耐火壁追設	新設	下地材: <input type="text"/> (JIS A6517) 鋼板:板厚 <input type="text"/> mm 下地材: <input type="text"/>	
1-h. エキスパンションジョイント改造	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm 止水シート:厚さ <input type="text"/> mm	
1-i. 外壁サイディング補強	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材: <input type="text"/>	
1-j. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/>	
1-k. 鉄扉及びシャッター交換	新設	鋼材:板厚 <input type="text"/> mm (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッターの場合、シャッター両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッターの場合、スラット部を示す)	
1-l. 鋼板補強	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm 下地材: <input type="text"/>	
1-m. 鋼板新設	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm	
1-n. 外壁更新	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材: <input type="text"/>	
1-o. 折板追設補強	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm	
1-p. 折板張替え補強	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm	

(参考)
添説建2-II.1.6-1表~6-9表
添付説明書-建2-付録2
添説建3-II.1.4-1表
添説建3-XI.3.8-1表
添説建3-XI.4.7-1表

変更後

表イ建-2 工場棟転換工場 主要な構造材の仕様表(7/7)

主要な部材寸法及び材質(2/2)

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
1-e. 柱梁仕口部補強	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm、 <input type="text"/> mm スタッドボルト:径 <input type="text"/> mm (JIS B1198) あと施工アンカー: D13	
	既設	鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨: 鉄骨:	
1-f. 柱脚部溶接補強	新設	—	—
1-g. 耐火壁追設	新設	下地材: <input type="text"/> (JIS A6517) 鋼板:板厚 <input type="text"/> mm 下地材: <input type="text"/>	
1-h. エキスパンションジョイント改造	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm 止水シート:厚さ <input type="text"/> mm	
1-i. 外壁サイディング補強	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材: <input type="text"/>	
1-j. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (丸鋼から先端を角棒に加工。角棒の寸法許容差は JIS G 3191 を準用)	
1-k. 鉄扉及びシャッター交換	新設	鉄扉鋼板:板厚 <input type="text"/> mm シャッターレール部: <input type="text"/> シャッタースラット部:板厚 <input type="text"/> mm	
1-l. 鋼板補強	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm 下地材: <input type="text"/>	
1-m. 鋼板新設	新設	鋼板:板厚 <input type="text"/> mm	
1-n. 外壁更新	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材: <input type="text"/>	
1-o. 折板追設補強	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm	
1-p. 折板張替え補強	新設	<input type="text"/> :板厚 <input type="text"/> mm	

(参考)
添説建2-II.1.6-1表~6-9表
添付説明書-建2-付録2
添説建3-II.1.4-1表
添説建3-XI.3.8-1表
添説建3-XI.4.7-1表

変更理由

材料に係る記載内容を適正化するため。なお、スラット材の明確化及び角棒に関する加工方法の記載の追加であり、適合性評価への影響はなく、加工施設の保全上支障のない変更である。

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前(令和2年3月27日付 原規規発第2003279号にて認可)

変更後

変更理由

表ハ建-2 工場棟成型工場 主要な構造材の仕様表(5/5)

主要な部材寸法及び材質

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
2-a. 壁新設補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D16、D19及びD22	
2-b. 壁増打ち補強	新設	鉄筋：D16 あと施工アンカー：D16、D19及びD22 シアコネクター：D13	
2-c. 梁側面増打ち補強	新設	鉄筋：D16及びD19 あと施工アンカー：D16、D19及びD22	
2-d. スラブ増打ち補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D19 シアコネクター：D13	
2-e. 鉄骨ブレース新設	新設	あと施工アンカー：D13、D16及びD19 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
2-f. 屋根面鉄骨補強	新設	あと施工アンカー：D22 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
	既設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
2-g. 耐火壁追設	新設	下地材： (JIS A6517)	
2-h. エキスパンション ジョイント改造	新設	鋼板：板厚(屋外) mm (屋内) mm	
2-i. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 mm	
2-j. 鉄扉交換	新設	鋼板：板厚 mm	
2-k. シャッタ改造	改造	鋼板：板厚 mm	
2-l. 折板追設補強	新設	mm：板厚 mm	

(参考)
 添説建2-III.1.6-16表~6-21表
 添付説明書-建2-付録2
 添説建3-III.1.4-1表
 添説建3-XI.3.8-1表
 添説建3-XI.4.7-1表

表ハ建-2 工場棟成型工場 主要な構造材の仕様表(5/5)

主要な部材寸法及び材質

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
2-a. 壁新設補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D16、D19及びD22	
2-b. 壁増打ち補強	新設	鉄筋：D16 あと施工アンカー：D16、D19及びD22 シアコネクター：D13	
2-c. 梁側面増打ち補強	新設	鉄筋：D16及びD19 あと施工アンカー：D16、D19及びD22	
2-d. スラブ増打ち補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D19 シアコネクター：D13	
2-e. 鉄骨ブレース新設	新設	あと施工アンカー：D13、D16及びD19 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
2-f. 屋根面鉄骨補強	新設	あと施工アンカー：D22 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
	既設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
2-g. 耐火壁追設	新設	下地材： (JIS A6517)	
2-h. エキスパンション ジョイント改造	新設	鋼板：板厚(屋外) mm (屋内) mm	
2-i. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 mm (丸鋼から先端を角棒に加工。角棒の寸法許容差はJIS G 3191を準用)	
2-j. 鉄扉交換	新設	鋼板：板厚 mm	
2-k. シャッタ改造	改造	鋼板：板厚 mm	
2-l. 折板追設補強	新設	mm：板厚 mm	

(参考)
 添説建2-III.1.6-16表~6-21表
 添付説明書-建2-付録2
 添説建3-III.1.4-1表
 添説建3-XI.3.8-1表

材料に係る記載内容を適正化するため。なお、角棒に関する加工方法の記載の追加であり、適合性評価への影響はなく、加工施設の保全上支障のない変更である。

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前(令和2年3月27日付 原規規発第2003279号にて認可)

表ホ建-2-1 工場棟組立工場 主要な構造材の仕様表(3/3)

主要な部材寸法及び材質

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
3-a. 壁新設補強	新設	新設杭： 鉄筋：D13 鉄筋：D22、D25 鉄筋：D29 鋼材：板厚 <input type="text"/> mm (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、シャッタ両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、スラット部を示す) 板厚 <input type="text"/> mm	
3-b. 壁増打ち補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D16 シアコネクター：D13	
3-c. バットレス新設補強	新設	鉄筋：D16 あと施工アンカー：D16 あと施工アンカー：D19及びD22	
3-d. スラブ新設補強	新設	鉄筋：D13及びD16 あと施工アンカー：D16	
3-e. 屋根面鉄骨補強	新設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
	既設	鋼管： 鋼管： 鋼管： 鋼管：	
3-f. 鉄扉及びシャッタ補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/> シャッタ補強材 JIS H4100に定める <input type="text"/> 断面寸法： <input type="text"/> mm	
3-g. 外壁更新(前室)	新設	<input type="text"/> ：板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材： <input type="text"/> 横補剛材： <input type="text"/> あと施工アンカー：D16	
	既設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
3-h. 折板張替え補強	新設	<input type="text"/> ：板厚 <input type="text"/> mm	

(参考)
添説建 2-IV. 1.6-10 表~6-16 表
添説建 3-IV. 1.4-1 表
添説建 3-XI. 3.8-1 表
転換工場との間のエキスパンションジョイント①は表イ建-2 に、成型工場との間のエキスパンションジョイント⑧は表ハ建-2 に、容器管理棟との間のエキスパンションジョイント⑨は表ヘ建-2-2 に示す。

変更後

表ホ建-2-1 工場棟組立工場 主要な構造材の仕様表(3/3)

主要な部材寸法及び材質

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
3-a. 壁新設補強	新設	新設杭： 鉄筋：D13 鉄筋：D22、D25 鉄筋：D29 鉄扉鋼板 ：板厚 <input type="text"/> mm シャッターレール部 ： <input type="text"/> シャッタスラット部 ：板厚 <input type="text"/> mm 板厚 <input type="text"/> mm (ダンパ)	
3-b. 壁増打ち補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D16 シアコネクター：D13	
3-c. バットレス新設補強	新設	鉄筋：D16 あと施工アンカー：D16 あと施工アンカー：D19及びD22	
3-d. スラブ新設補強	新設	鉄筋：D13及びD16 あと施工アンカー：D16	
3-e. 屋根面鉄骨補強	新設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
	既設	鋼管： 鋼管： 鋼管： 鋼管：	
3-f. 鉄扉及びシャッタ補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/> <input type="text"/> (<input type="text"/> 丸鋼から先端を角棒 に加工。角棒の寸法許容差は JIS G 3191 を運用) シャッタ補強材 JIS H4100 に定める <input type="text"/> 断面寸法： <input type="text"/> mm	
3-g. 外壁更新(前室)	新設	<input type="text"/> ：板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材： <input type="text"/> 横補剛材： <input type="text"/> あと施工アンカー：D16	
	既設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
3-h. 折板張替え補強	新設	<input type="text"/> ：板厚 <input type="text"/> mm	

(参考)
添説建 2-IV. 1.6-10 表~6-16 表
添説建 3-IV. 1.4-1 表
添説建 3-XI. 3.8-1 表
転換工場との間のエキスパンションジョイント①は表イ建-2 に、成型工場との間のエキスパンションジョイント⑧は表ハ建-2 に、容器管理棟との間のエキスパンションジョイント⑨は表ヘ建-2-2 に示す。

変更理由

材料に係る記載内容を適正化するため。なお、スラット材の明確化及び角棒に関する加工方法の記載の追加であり、適合性評価への影響はなく、加工施設の保全上支障のない変更である。

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前(令和2年3月27日付 原規規発第2003279号にて認可)

変更後

変更理由

表へ建-2-2 付属建物容器管理棟 主要な構造材の仕様表(2/2)

表へ建-2-2 付属建物容器管理棟 主要な構造材の仕様表(2/2)

耐震性能及び耐竜巻性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様

耐震性能及び耐竜巻性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様

項目	仕様(工事番号及び工事名称)	対象図面
耐震性能向上	(1)前室 5-a. エキスパンションジョイント改造 鋼板: 板厚(屋外) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm (屋内) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm	(1)前室 5-a. 図イ建-5(1/3)、 図へ建-6~12 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建2- 付録2
耐竜巻性能向上	(1)保管室及び前室 5-b. 鉄扉補強 鉄扉補強材 鉄骨: <input type="text"/> (2)前室 5-c. 外壁更新 鉄骨: <input type="text"/> 外壁下地材: <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D16 <input type="text"/> 外壁: サイディング <input type="text"/> 板厚 <input type="text"/> mm 発泡性耐火被覆材: 厚さ <input type="text"/> mm	(1)保管室及び前室 5-b. 図イ建-9、12~ 13 図へ建-6~8 (2)前室 5-c. 図へ建-6~7、 10、13 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建3-VI 添付説明書-建1

項目	仕様(工事番号及び工事名称)	対象図面
耐震性能向上	(1)前室 5-a. エキスパンションジョイント改造 鋼板: 板厚(屋外) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm (屋内) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm	(1)前室 5-a. 図イ建-5(1/3)、 図へ建-6~12 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建2- 付録2
耐竜巻性能向上	(1)保管室及び前室 5-b. 鉄扉補強 鉄扉補強材 鉄骨: <input type="text"/> (<input type="text"/> 丸鋼から先端を角棒に加工。角棒の寸法許容差は JIS G 3191 を準用) <input type="text"/> (2)前室 5-c. 外壁更新 鉄骨: <input type="text"/> 外壁下地材: <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D16 <input type="text"/> 外壁: サイディング <input type="text"/> 板厚 <input type="text"/> mm 発泡性耐火被覆材: 厚さ <input type="text"/> mm	(1)保管室及び前室 5-b. 図イ建-9、12~ 13 図へ建-6~8 (2)前室 5-c. 図へ建-6~7、 10、13 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建3-VI 添付説明書-建1

主要な部材寸法及び材質

主要な部材寸法及び材質

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
5-a. エキスパンションジョイント改造	新設	鋼板: 板厚(屋外) <input type="text"/> mm (屋内) <input type="text"/> mm	[]
5-b. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/>	
5-c. 外壁更新	新設	鉄骨: <input type="text"/> 外壁下地材: <input type="text"/> 外壁下地材受け: <input type="text"/> あと施工アンカー: D16 <input type="text"/> : 板厚 <input type="text"/> mm	
	既設	鉄骨: <input type="text"/>	

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
5-a. エキスパンションジョイント改造	新設	鋼板: 板厚(屋外) <input type="text"/> mm (屋内) <input type="text"/> mm	[]
5-b. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/> (<input type="text"/> 丸鋼から先端を角棒に加工。角棒の寸法許容差は JIS G 3191 を準用) <input type="text"/>	
5-c. 外壁更新	新設	鉄骨: <input type="text"/> 外壁下地材: <input type="text"/> 外壁下地材受け: <input type="text"/> あと施工アンカー: D16 <input type="text"/> : 板厚 <input type="text"/> mm	
	既設	鉄骨: <input type="text"/>	

(参考)
添説建2-VI.1.6-6表
添付説明書-建2-付録2
添説建3-VI.1.4-1表
添説建3-XI.3.8-1表

(参考)
添説建2-VI.1.6-6表
添付説明書-建2-付録2
添説建3-VI.1.4-1表
添説建3-XI.3.8-1表

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。

変更前(令和2年3月27日付 原規規発第2003279号にて認可)

変更後

変更理由

表ト建-2-1 放射線管理棟 主要な構造材の仕様表(2/4)

表ト建-2-1 放射線管理棟 主要な構造材の仕様表(2/4)

耐震性能及び耐竜巻性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様

耐震性能及び耐竜巻性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様

項目	仕様(工事番号及び工事名称)	対象図面
耐震性能向上	(1) 本体及び増築部 6-a. 壁新設補強 新設壁厚さ: <input type="text"/> mm 他 鉄筋: D10 <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D13 <input type="text"/> 他 6-f. エキスパンションジョイント改造(注1) 鋼板: 板厚(屋外) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm (屋内) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm	(1) 本体及び増築部 6-a. 図ト建-5~6、 11、15~16、21 6-f. 図イ建-5(1/3)、 図ト建-1~6、16
	(2) 本体 6-b. 壁増打ち補強 増打ち厚さ: <input type="text"/> mm 他 鉄筋: D13 <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D22 <input type="text"/> 他 シアコネクター: D13 <input type="text"/> 他 (3) 廃棄物一時貯蔵所 6-c. 鉄骨ブレース新設 鉄骨: <input type="text"/> 他 6-d. 屋根面ブレース追設 鉄骨: <input type="text"/>	(2) 本体 6-b. 図ト建-5、13、 19 (3) 廃棄物一時貯蔵所 6-c. 図ト建-5、14、 20 6-d. 図ト建-6 6-e. 図ト建-6、11、 12、20 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建2-III 添付説明書-建2-VII 添付説明書-建2- 付録2
耐竜巻性能向上	6-e. 方杖追設補強 鉄骨: <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D16 <input type="text"/> 他	
	(1) 廃棄物一時貯蔵所及び廃水処理室 6-g. 外壁更新 外壁: サイディング <input type="text"/> 板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材: <input type="text"/> 他 発泡性耐火被覆材: 厚さ <input type="text"/> mm 鋼板: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm 他 ALC: 厚さ <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm (2) 本体 6-h. 鉄扉補強 鉄扉補強材 鉄骨: <input type="text"/> (3) 本体及び増築部 6-i. 鉄扉交換 鋼板: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm	(1) 廃棄物一時貯蔵所 及び廃水処理室 6-g. 図ト建-1~2、 5、12、14、20 (2) 本体 6-h. 図イ建-9、12~ 13、図ト建-1~2 (3) 本体及び増築部 6-i. 図イ建-9、12、 図ト建-1~2 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建3-III 添付説明書-建3-VII

項目	仕様(工事番号及び工事名称)	対象図面
耐震性能向上	(1) 本体及び増築部 6-a. 壁新設補強 新設壁厚さ: <input type="text"/> mm 他 鉄筋: D10 <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D13 <input type="text"/> 他 6-f. エキスパンションジョイント改造(注1) 鋼板: 板厚(屋外) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm (屋内) <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm	(1) 本体及び増築部 6-a. 図ト建-5~6、 11、15~16、21 6-f. 図イ建-5(1/3)、 図ト建-1~6、16
	(2) 本体 6-b. 壁増打ち補強 増打ち厚さ: <input type="text"/> mm 他 鉄筋: D13 <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D22 <input type="text"/> 他 シアコネクター: D13 <input type="text"/> 他 (3) 廃棄物一時貯蔵所 6-c. 鉄骨ブレース新設 鉄骨: <input type="text"/> 他 6-d. 屋根面ブレース追設 鉄骨: <input type="text"/>	(2) 本体 6-b. 図ト建-5、13、 19 (3) 廃棄物一時貯蔵所 6-c. 図ト建-5、14、 20 6-d. 図ト建-6 6-e. 図ト建-6、11、 12、20 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建2-III 添付説明書-建2-VII 添付説明書-建2- 付録2
耐竜巻性能向上	6-e. 方杖追設補強 鉄骨: <input type="text"/> 他 あと施工アンカー: D16 <input type="text"/> 他	
	(1) 廃棄物一時貯蔵所及び廃水処理室 6-g. 外壁更新 外壁: サイディング <input type="text"/> 板厚 <input type="text"/> mm 外壁下地材: <input type="text"/> 他 発泡性耐火被覆材: 厚さ <input type="text"/> mm 鋼板: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm 他 ALC: 厚さ <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm (2) 本体 6-h. 鉄扉補強 鉄扉補強材 鉄骨: <input type="text"/> (<input type="text"/> 丸鋼から先端を角棒に加工。角棒 の寸法許容差は JIS G 3191 を準用) <input type="text"/> (3) 本体及び増築部 6-i. 鉄扉交換 鋼板: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> mm	(1) 廃棄物一時貯蔵所 及び廃水処理室 6-g. 図ト建-1~2、 5、12、14、20 (2) 本体 6-h. 図イ建-9、12~ 13、図ト建-1~2 (3) 本体及び増築部 6-i. 図イ建-9、12、 図ト建-1~2 (参考) 図イ建-1-1(1/4) 添付説明書-建3-III 添付説明書-建3-VII

注1) 放射線管理棟前室との間のエキスパンションジョイントⒸは表ト建-2-2に示す。

注1) 放射線管理棟前室との間のエキスパンションジョイントⒸは表ト建-2-2に示す。

材料に係る記載内容を適正化するため。なお、角棒に関する加工方法の記載の追加であり、適合性評価への影響はなく、加工施設の保全上支障のない変更である。

変更前(令和2年3月27日付 原規規発第2003279号にて認可)

変更後

変更理由

表ト建-2-1 放射線管理棟 主要な構造材の仕様表(4/4)

表ト建-2-1 放射線管理棟 主要な構造材の仕様表(4/4)

主要な部材寸法及び材質

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
6-a. 壁新設補強	新設	鉄筋：D10 及び D13 あと施工アンカー：D13、D16 ：D19	
6-b. 壁増打ち補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D22 シアコネクター：D13	
6-c. 鉄骨ブレース新設	新設	鉄骨： 鉄骨：	
	既設	鉄骨： 鉄骨：	
6-d. 屋根面ブレース追設	新設	鉄骨：	
	既設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
6-e. 方杖追設補強	新設	鉄骨： 鉄骨： あと施工アンカー：D16	
6-f. エキスパンション ジョイント・カバー改造	新設	鋼板：板厚（屋外） <input type="text"/> mm （屋内） <input type="text"/> mm	
6-g. 外壁更新	新設	<input type="text"/> ：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
		鋼板：板厚（外側） <input type="text"/> mm （内側） <input type="text"/> mm ALC：厚さ <input type="text"/> mm	
6-h. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/>	
6-i. 鉄扉交換	新設	鋼板：板厚 <input type="text"/> mm	

(参考)
 添説建2-III.1.6-17表
 添説建2-VII.1.2-1表
 添付説明書-建2-付録2
 添説建3-III.1.4-1表
 添説建3-VII.1.4-1表
 添説建3-XI.3.8-1表

365

主要な部材寸法及び材質

工事番号及び工事名称	区分	部材寸法	材質
6-a. 壁新設補強	新設	鉄筋：D10 及び D13 あと施工アンカー：D13、D16 ：D19	
6-b. 壁増打ち補強	新設	鉄筋：D13 あと施工アンカー：D22 シアコネクター：D13	
6-c. 鉄骨ブレース新設	新設	鉄骨： 鉄骨：	
	既設	鉄骨： 鉄骨：	
6-d. 屋根面ブレース追設	新設	鉄骨：	
	既設	鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
6-e. 方杖追設補強	新設	鉄骨： 鉄骨： あと施工アンカー：D16	
6-f. エキスパンション ジョイント・カバー改造	新設	鋼板：板厚（屋外） <input type="text"/> mm （屋内） <input type="text"/> mm	
6-g. 外壁更新	新設	<input type="text"/> ：板厚 <input type="text"/> mm 鉄骨： 鉄骨： 鉄骨：	
		鋼板：板厚（外側） <input type="text"/> mm （内側） <input type="text"/> mm ALC：厚さ <input type="text"/> mm	
6-h. 鉄扉補強	新設	鉄扉補強材 <input type="text"/> <u>(<input type="text"/>丸鋼から先端を角棒 に加工。角棒の寸法許容差は JIS G 3191 を準用)</u>	
6-i. 鉄扉交換	新設	鋼板：板厚 <input type="text"/> mm	

(参考)
 添説建2-III.1.6-17表
 添説建2-VII.1.2-1表
 添付説明書-建2-付録2
 添説建3-III.1.4-1表
 添説建3-VII.1.4-1表
 添説建3-XI.3.8-1表

365

材料に係る記載内容を適正化するため。なお、角棒に関する加工方法の記載の追加であり、適合性評価への影響はなく、加工施設の保全上支障のない変更である。

変更対象を黒文字下線もしくは黒線囲い、変更箇所を赤文字下線もしくは赤線囲いで示す。